



注目される 南紀はまゆう支援

和歌山県や和歌山県教育委員会から発行される広報誌に本校の施設や取組が紹介されました。

今年4月に完成した
新庁舎に紀州材を多く利用



環境衛生研究センター
木材を建築物等に利用すること、木材に含まれる炭素が長期間固定され、CO₂として大気中に放出されることを防ぐとともに、森林の伐採・利用・再植林といったサイクルが促され、森林のCO₂吸収作用が向上します。

年間で約140万円の節約 & 約160tのCO₂削減



南紀はまゆう支援学校
初期費用やメンテナンス費用が不要のPPA方式※で、県有施設への太陽光発電設備導入を進めています。この取組の第一弾として、南紀はまゆう支援学校に太陽光パネルを設置しました。
※事業者が公共施設の屋根や公有地などに発電設備を設置・所有・管理し、自治体は使用量に応じた電気料金を事業者を支払う仕組み

県の施設も環境への配慮を進めています

県民の友
8月号

県民の友 令和7年8月号 6

輝く！
紀の国の
教育
第53号

両学校での取組を紹介します！ 和歌山県立南紀はまゆう支援学校

ボッチャに挑戦！

全国ボッチャ選抜甲子園オープンの部に出場

県立南紀はまゆう支援学校では、体育の授業や休憩時間などの時間を活用し、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」競技に取り組んでいます。ボッチャは、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、**すべての人が一緒に競い合えるスポーツ**です。

令和7年2月、一般社団法人日本ボッチャ協会主催「ボッチャキャラバンin和歌山」が開催され、同校を会場に東京

パラリンピック日本代表中村拓海選手をはじめとするボッチャ日本代表（火ノ玉JAPAN）選手を迎えた体験授業が行われました。同校の高等部生徒たちは、代表選手の戦術や戦術に身近に触れ、その正確さや力強さに何とも言えない緊張感を味わいました。ボッチャ競技への関心や意欲をより一層高める機会となりました。

こうした中、「全国ボッチャ選抜甲子園」において、本年度から、肢体不自由生徒のみでチームを編成することが難しい場合、肢体不自由のない知的障害生徒とチームを組み、予選に参加できる「オープンの部」が新設されました。

同校では、これを契機に、中学部生徒が**チーム「パーシー」**を結成し、大会への初出場に向けて練習に励んでいます。生徒たちは、戦術を話し合ったり、狙い通りの投球ができた時にはともに喜びあったり、また、うまくいかなかった時にはともに声を掛け合い励まし合ったりと、ボッチャ競技を通じて**他者を思いやる気持ちや主体的に取り組む力**が高まっています。大会への出場が、ともにスポーツに励む選手同士の交流を深める機会となることを期待しています。

